

秋本議員逮捕受託収賄疑い

風力社長から6146万円 否認



秋本真利衆院議員

政府の洋上風力発電事業をめぐる汚職事件で、

東京地検特捜部は7日、「日本風力開発」（東京）の事業参入に有利な国会質問をした見返りに計約6146万円の賄賂を受けたとして、衆院議員の秋本真利容疑者（48）＝比例南関東、自民党を離党＝を受託収賄の疑いで逮捕し、発表した。現職国会議員の逮捕は河井克行元法相と妻の栗原氏が2020年に選挙貰取事件で逮捕されて以来、3年3ヶ月ぶり。▼2面＝批判、10面＝社説

の謝礼として賄賂を受けた事実はない」と容疑を否認するコメントを出し、一方、同社の塚越正幸前社長（64）は賄賂性を認め、特捜部は在宅のまま贈賄容疑で調べる。

本議員は2019年2月～22年2月に数回、再エネ海城利用法に基づいて洋上風力発電事業をめぐり、同社に有利な国会質問をしてほしいと、塚越氏から依頼を受けた。その上で19年3月～23年6月、国会質問の謝礼などとして計約6146万円の賄賂を塚越氏から受け取った疑いがある。

2020年には①19年3月、日本中央競馬会の個人馬主に登録するために無利子無担保で8千万円を借りた②21年10月～23年2月、恩主組合などの債務を繰り返していた。

返済として約896万円を取引先に送金させた③22年10月、議員会館事務所で馬の購入費として現金1千万円を受領④23年

2～6月、組合の経費として1255万円を組合に送金させたとされた。秋本議員はこの間、洋上風力をめぐる国会質問

菅氏を「オヤジ」業界の窓口

2020年12月15日
2カ月前、菅氏は所信表明演説で、温室効果ガスの排出を50年までに実質ゼロにする「カーボンニュートラル（脱炭素宣言）」を打ち出した。再エネの「最大限導入」を掲げた菅氏との面会を望む副会長は、原発の立地自治体に出すような交付金について、再生可能エネルギーも対象に加えてほしいと語る秋本議員だった。会長に会食をセッティングしたのが、菅氏を「オヤジ」と呼ぶ秋本議員だった。

菅義偉首相（当時）。副会長は、原発の立地自治体の「最大限導入」を掲げた菅氏との面会を望む副会長に会食をセッティングしたのが、菅氏を「オヤジ」と呼ぶ秋本議員だった。この日は日中に洋上風力をめぐる官民の協議会が開かれており、同社の塚越正幸前社長も出席。

洋上風力発電を「再エネの主力電源化に向けた切

り札」と位置づける産業ビジョンがまとまりた。12年の初当選時から自民党内で「脱原発」を主張し、再エネ議員連盟の事務局長を務めた秋本議員。業界関係者は「再エネ関連で頼れる議員がない中、業界と党の唯一の窓口で、菅さんらとも近い。世間的には無名かもしれないが、業界では誰もが知っている圧倒的な存在」と評した。

（川嶋かえ）

